

科目ナンバリング		P-PUB01 8N007 SJ90					
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング演習 1 (GC限定) Genetic Counselling, Exercise 1			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 附属病院 医学研究科 医学研究科	特定講師 特定准教授 特定助教 特定助教	川崎 秀徳 小川 昌宣 鳥嶋 雅子 吉田 晶子
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限	2・4週:金5・6限	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語		
【授業の概要・目的】							
【基本情報】 授業日時：金曜日(原則隔週)5・6時限 教室：G棟セミナー室Aまたは演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：遺伝カウンセリング演習1(基礎)・遺伝カウンセリング演習2(応用) 担当者：川崎秀徳(科目責任者)、小川昌宣、吉田晶子、鳥嶋雅子、村上裕美、本田明夏、源明理、春山瑛依子 田村和朗、巽純子、西郷和真、福嶋伸之、川下理日人、木下善仁、仲間美奈 レクチャー担当者							
【コースの概要】 実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝的問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的問題、倫理的問題、心理的問題などについて、他の学内からのカンファレンス参加者とともに、徹底的な討論を行う。1年次学生も後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について、自ら提示を行い、カンファレンスを中心的に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中で最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生(1回生11月頃～年度末、2回生4月～10月頃。移行期は各コースの実情による)が症例提示を行う。16:45～17:45頃：京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー(カンファレンスレクチャー)。18:00頃～20:00頃：合同カンファレンス症例提示・検討会(1回4例-5例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う)。 。なお、講演者の予定により、レクチャーと症例検討の順番を変えることがある。							
【教育・学習方法】 症例提示・討論、カンファレンス記録の作成(症例ごとに順番で担当)。							
【到達目標】 症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる。							
【授業計画と内容】 <司会>カンファレンスレクチャー担当者 【第1回】4月12日<小杉>小杉眞司「合同カンファレンスのイントロダクション」 【第2回】4月26日<本田>平岡弓枝「がんゲノム医療と遺伝カウンセリング」 【第3回】5月10日 近大 【第4回】5月24日<村上>渡邊瑞希「造血器疾患患者にみられる遺伝性疾患とその課題」 【第5回】6月14日<吉田>森貞直哉「遺伝性腎疾患の診断と遺伝カウンセリング」							
----- 遺伝カウンセリング演習1(GC限定)(2)へ続く -----							

遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (2)

【第6回】6月28日 近大

【第7回】7月12日 <川崎> 吉田健司「京都大学小児科神経グループにおける網羅的遺伝子解析の取り組み」

【第8回】7月26日 <小川> 秦健一郎「エピゲノム異常と疾患」

【第9回】10月25日 近大

【第10回】11月8日 <川崎> 朝野仁裕「循環器疾患における遺伝医療の進展と今後の課題」

【第11回】11月22日 <源> 山崎博司「耳鼻科臨床から見た遺伝性難聴」

【第12回】12月13日 近大

【第13回】12月27日 <鳥嶋> 柊中智恵子「成人期発症神経難病の遺伝カウンセリングー遺伝性ATTRアミロイドーシスを中心に」

【第14回】1月10日 <春山> 新年懇談会

【第15回】1月24日 <小川> 田村智英子「どんどん遅れる日本のゲノム医療～遺伝カウンセラーは何を目指すべきか」

<合同カンファレンスの具体的進行方針>

1) 合同カンファレンスの目的：合同カンファレンスは実習報告会ではない。同席者としての感想などは原則として除外する。症例としての検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたかどうか、誤った点や不足する点はなかったかなど、内外の専門家の意見、討議を聞き、それに参加する。できるだけ多くの人の意見を聞けるよう、結果として今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるように討議の時間を確保する。

2) プレゼンテーション：プレゼンテーションは客観的な事実を端的にまとめる。まず、ケースの背景と相談点参加者に理解してもらう。相談経過、問題点・討議点も同様に端的に示す。発表時間は12分程度、議論を13分程度とする。

3) スライド：議論が整理しやすいように論点を整理する。タイトル(日付・発表者・担当医名を含む)、疾患理解のための説明、クライアント来談の背景・主訴、家系図、遺伝カウンセリングの具体的な内容、課題・問題点の考察といった構成を原則とする。

4) 進行：プレゼンテーション終了後、司会者が質問や意見を参加者から受け付ける。質問に対する返答は原則プレゼンテーションを行った院生が行うが、実習を担当した教員ならびに認定遺伝カウンセラーも必要に応じて対応する。

5) 終了後：ディスカッションの内容を含んだスライドを1枚追加する。担当医ならびに認定遺伝カウンセラーの確認後、「カウンセリング記録」および「カンファレンス記録」の2箇所保存する。(カンファレンス終了1週間以内に)

* 個人情報に接することがあるため、初回参加時には「誓約書」を提出する。カウンセリング内容についての会話は、他者のいるところではしないこと、内容を記したノートは、他者の目にふれないようにすること、ノートの貸し借りは禁止する。

【履修要件】

遺伝カウンセラーコース限定必修科目(事前確定科目)1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」

【成績評価の方法・観点】

プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。

遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (3)

[教科書]

使用しない
ハンドアウトの配布は、原則としてありません。

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

適宜指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8N008 SJ90					
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) Genetic Counselling, Exercise 2		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 附属病院 医学研究科 医学研究科	特定講師 特定准教授 特定助教 特定助教	川崎 秀徳 小川 昌宣 鳥嶋 雅子 吉田 晶子	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限	2・4週：金5・6限	授業形態	演習 (対面授業科目)		使用言語	日本語	
【授業の概要・目的】							
【基本情報】 授業日時：金曜日 (原則隔週) 5・6時限 教室：G棟セミナー室Aまたは演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：遺伝カウンセリング演習1 (基礎)・遺伝カウンセリング演習2 (応用) 担当者：川崎秀徳 (科目責任者)、小川昌宣、吉田晶子、鳥嶋雅子、村上裕美、本田明夏、源明理、春山瑛依子 田村和朗、巽純子、西郷和真、福嶋伸之、川下理日人、木下善仁、仲間美奈 レクチャー担当者							
【コースの概要】 実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝的問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的問題、倫理的問題、心理的問題などについて、他の学内からのカンファレンス参加者とともに、徹底的な討論を行う。1年次学生も後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について、自ら提示を行い、カンファレンスを中心的に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中で最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生 (1回生11月頃～年度末、2回生4月～10月頃。移行期は各コースの実情による) が症例提示を行う。16:45～17:45頃：京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー (カンファレンスレクチャー)。18:00頃～20:00頃：合同カンファレンス症例提示・検討会 (1回4例 - 5例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う)。 。なお、講演者の予定により、レクチャーと症例検討の順番を変えることがある。							
【教育・学習方法】 症例提示・討論、カンファレンス記録の作成 (症例ごとに順番で担当)。							
【到達目標】 症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる。							
【授業計画と内容】 <司会>カンファレンスレクチャー担当者 【第1回】4月12日 <小杉> 小杉眞司「合同カンファレンスのイントロダクション」 【第2回】4月26日 <本田> 平岡弓枝「がんゲノム医療と遺伝カウンセリング」 【第3回】5月10日 近大 【第4回】5月24日 <村上> 渡邊瑞希「造血器疾患患者にみられる遺伝性疾患とその課題」 【第5回】6月14日 <吉田> 森貞直哉「遺伝性腎疾患の診断と遺伝カウンセリング」							
----- 遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)へ続く -----							

遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)

【第6回】6月28日 近大

【第7回】7月12日 <川崎> 吉田健司「京都大学小児科神経グループにおける網羅的遺伝子解析の取り組み」

【第8回】7月26日 <小川> 秦健一郎「エピゲノム異常と疾患」

【第9回】10月25日 近大

【第10回】11月8日 <川崎> 朝野仁裕「循環器疾患における遺伝医療の進展と今後の課題」

【第11回】11月22日 <源> 山崎博司「耳鼻科臨床から見た遺伝性難聴」

【第12回】12月13日 近大

【第13回】12月27日 <鳥嶋> 柊中智恵子「成人期発症神経難病の遺伝カウンセリングー遺伝性ATTRアミロイドーシスを中心に」

【第14回】1月10日 <春山> 新年懇談会

【第15回】1月24日 <小川> 田村智英子「どんどん遅れる日本のゲノム医療～遺伝カウンセラーは何を目指すべきか」

<合同カンファレンスの具体的進行方針>

1) 合同カンファレンスの目的：合同カンファレンスは実習報告会ではない。同席者としての感想などは原則として除外する。症例としての検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたかどうか、誤った点や不足する点はなかったかなど、内外の専門家の意見、討議を聞き、それに参加する。できるだけ多くの人の意見を聞けるよう、結果として今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるように討議の時間を確保する。

2) プレゼンテーション：プレゼンテーションは客観的な事実を端的にまとめる。まず、ケースの背景と相談点参加者に理解してもらう。相談経過、問題点・討議点も同様に端的に示す。発表時間は12分程度、議論を13分程度とする。

3) スライド：議論が整理しやすいように論点を整理する。タイトル(日付・発表者・担当医名を含む)、疾患理解のための説明、クライアント来談の背景・主訴、家系図、遺伝カウンセリングの具体的な内容、課題・問題点の考察といった構成を原則とする。

4) 進行：プレゼンテーション終了後、司会者が質問や意見を参加者から受け付ける。質問に対する返答は原則プレゼンテーションを行った院生が行うが、実習を担当した教員ならびに認定遺伝カウンセラーも必要に応じて対応する。

5) 終了後：ディスカッションの内容を含んだスライドを1枚追加する。担当医ならびに認定遺伝カウンセラーの確認後、「カウンセリング記録」および「カンファレンス記録」の2箇所保存する。(カンファレンス終了1週間以内に)

* 個人情報に接することがあるため、初回参加時には「誓約書」を提出する。カウンセリング内容についての会話は、他者のいるところではしないこと、内容を記したノートは、他者の目にふれないようにすること、ノートの貸し借りは禁止する。

【履修要件】

遺伝カウンセラーコース限定必修科目(事前確定科目) 1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」

【成績評価の方法・観点】

プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。

遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (3)

[教科書]

使用しない
ハンドアウトの配布は、原則としてありません。

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

適宜指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。